

■再生品を選ぶ

今東京 23 区の粗大ごみの第 1 位は何か知っていますか。答えは「ふとん」です。ちょっとびっくりしませんか。

昔はふとん綿は打ち直して何回も何回も使用していました。現在では、化学繊維技術の向上で綿だけではなくポリエステル等の合成繊維との混紡が利用されるようになりました。また海外から価格の安いふとん綿が輸入されるようになり、安価なものが市販されるようになったり、生活スタイルの変化により、ふとん綿の打ち直しはほとんどみられなくなり、ふとんが使い捨てされるようになっていきます。

現在東京 23 区では 1 年間に約 38 万枚のふとんが廃棄されています。大量に捨てられたふとんは現在ほとんどが焼却処理され灰になっています。

そこで大量に燃やされているふとん綿を有効利用できないかと考え出されたのが、ふとん綿の再生品「優綿(YUME)」(商品名)です。靴下、軍足、軍手、バッグ、マットなど種類は豊富です。

この「優綿」の靴下(組成:ふとん綿 50%、レーヨン 28%、ポリエステル 17%、ポリウレタン 5%)は、肌触りがよくとても優しく、暖かいと評判です。ただ残念なことに、まだ広く一般に市販されておらず、消費者の目にはなかなかとまらないのが現状のようです。今後生協などで販売の予定はあるそうです。

またふとん回収をしている数少ない自治体では、回収後再生した軍手等をグリーン購入をしているところもありますが、総体的にはふとん綿の再利用はほとんどされていません。

「リサイクル品を使わなければリサイクルは回らない」と販売元 KY company の橋本さんは言っています。このような再生品がどこに行っても手軽に購入でき、主力商品となるような社会をみんなで創っていきましょう。